



「庄内の水縁-かつて・いま・みらい-」

講 座

活 動 報 告

平成 18 年 11 月 8 日

1. 開催概況

日時：平成18年11月8日（水） 13:00～17:00

場所：ノコトぶな公園／月山ダム管理所3階会議室

内容：平成18年度（財）山形県生涯学習文化財団「山形学」地域連携講座
「庄内の水縁－ かつて・いま・みらい」講座

- ① ノコトぶな公園にて調査活動
来年度のブナ公園整備に向けて、5年前の植樹団体の把握
森の生育状況調査
- ② 第3回講座 「水源地 かつて・いま・みらい」
講師：鶴岡市朝日庁舎 政策企画主査 渡部 洋一 氏

2. 報告

① ノコトぶな公園での調査活動

- 植樹団体名が書かれた白杭が、雪などの影響で紛失している。また、現存のものも倒れている。
- はんの木の成長が著しく、ブナの幼木やその他の木々もほぼ順調に育っている。
- 植樹当時の支えが逆に木の生育を妨げていると思われる箇所が多々見つかった。
(写真参照)
- 下刈り、枝打ちをしていないため、成長の遅いブナの木が折れた枝に押しつぶされている所もあった。
- 繁茂したツルが枝を巻き込み、成長の障害になっている木もたくさんあった。「ツル切り」という作業も必要なのではないか。



② 「水源地 かつて・いま・みらい」
講座

【主な意見交換】

大類：昨今の異常気象、温暖化の原因について、専門家は明言しない。もっと市民が声を上げなければいけないと思う。昔は山の木を切り、利用して生活してきたが、現在は逆に切られず、古くなった木が倒れて森が荒れている。本来の森の姿を大切に、それを手助けしていくような活動をするべきだ。

田中：「自然食」がブームになっているが、本来そこにあった食文化が一番あっている。同じように、本当の自然に立ち返って、自然に優しい企画を考えていかなければならない。

大類：理想的な活動をしている金山町では、まず「人を作る」ということに取り組んでいる。参考にしたい。

岡部：これまでいろいろな活動をしてきて感じるのは、それぞれが分割したスキルを持った専門家がいれば、もっとスムーズに物事が進むのではないかと、ということ。またもともとスキルのある人同士をつないでいくことも大切ではないかと思う。

田中：環境問題はものすごくデリケート。だからこそ話し合う必要がある。様々な考えをもった人たちの「出会いの場」を作ることも必要。特に団塊の世代はこれからどんどん退職し、時間をもてあます人も出てくる。そういう人たちを引っ張ってこられたら面白いと思う。

渡部：アイデアはどこにでも転がっている。それを誰が発言するか、である。

大類：「草刈自由人」という団体の一人が鶴岡にもいる。この人を呼んで活動をするというのも可能。とにかく無理の無い人材育成が必要。

田中：そうやって育った人が底辺になって継続的な活動になっていく。ただし、開催場所の問題はある。中台にはまだ人を入れたくない、というのが本音であ

る。

大類：人は呼びたい、でもそれが自然破壊につながることもある。例えば中台には奥のほうに隠れた沼があり、そこには希少な生き物や浮島がある。しかし、守るために見せるという方法もあると思う。

小向：今、我々も「森林再生検討会」を行なっている。森はほったらかしにしてもちゃんと再生するし、どのように再生していくかは自然が決めてくれる。そこに人間が手を加えるのであれば、100年後、200年後の「こうあって欲しい」というイメージをもってやっていくべきだ、という考え方で今話し合いをしている。

岡部：ネットワークの活動への希望、という意味では、11月6日、事務局のハイスタッフとともに県庁へ行き、文化環境部環境企画課の富樫健治さん、みどり環境課の鈴木雄大さんへ助成金、環境税の適用について相談してきた。中でも、来年度より実施予定の助成制度があるのでぜひ応募して欲しいとのことだった。「今後は森林組合だけでなく市民レベルで取り組めるような活動に期待している」とおっしゃっていた。

今後、今回の講義を参考にして、できれば渡部洋一さんにも加わっていただいてネットワーク活動として実現していきたい。

